

来場形オープンキャンパス実施における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

高崎健康福祉大学

1. 感染症予防に関する事前対策と周知

(1) 実施スタッフの健康管理

実施に関わる教職員・学生に対し、毎日の検温と健康管理、ソーシャルディスタンス確保、咳エチケット、マスク着用、石鹸を使用した手洗い、消毒剤による手指の消毒等を徹底することを周知する。体調不良となった場合は、感染対策本部による「新型コロナウイルス対応フロー」に基づいて自宅待機もしくは医療機関の受診を行ってもらう。

(2) 参加者への事前連絡

参加者に対し、以下について事前に周知・要請を行う。

- ・参加前の2週間、体調管理をしてもらうこと
- ・当日はマスクを着用してもらうこと
- ・当日はバス乗車時と会場入場時に検温を実施すること
- ・参加後に感染が判明した場合に連絡をとること

2. 事前準備

(1) 会場内の消毒

会場内の机・椅子等はアルコール除菌シートを使用して消毒を行う。

(2) 個別相談会場の設置

個別相談では、教員間は1 m以上の間隔をあげ、相談者とは真正面で対面することのないよう、かつ1 m以上の間隔をあけて座席を配置する。

(3) アルコール製剤の準備

会場入口や実施教室、トイレ入口付近等にアルコール製剤を配置する。

(4) トイレ待ちの距離確保

トイレ入口に順番待ちのラインを床に引き、順番待ち時の間隔を確保する。

(5) 検温器の準備

会場入口に体温測定のための非接触型検温器と実測式体温計を設置または準備する。

3. 当日の対応

(1) バス乗車時における検温の実施

バス乗車時に非接触型検温器を用いて参加者の検温を実施する。37.5 度以上の人には休憩後再検温を実施し、それでも 37.5 度を下まわらない場合はバスに乗車できない旨を説明して帰宅してもらう。

(2) 会場への入場

各会場への入場時には、一定間隔をあけて入場するよう指示する。

(3) 会場入口での検温の実施

会場入口にて非接触型検温器を用いて検温を実施する。37.5 度以上の人には 5~10 分後に再検温を実施し、それでも下がらない場合は実測式体温計を用いて検温をし、37.5 度を下まわらない場合は参加できない旨を説明して帰宅してもらう。

(4) 参加中の注意事項の徹底

参加中は常にマスクを着用し、私語を慎み、他の人と一定間隔をあけるよう指示する。また、各会場入口及びトイレ入口付近、教室等に設置してあるアルコール製剤にて手指の消毒を行ってもらう。

(5) 会場での換気

各会場ともできる限り窓を開けて換気を行う。当日の天候により臨機応変に対応する。

(6) トイレの使用

トイレ入口における混雑をさけるため、順番待ちのラインが床に引いてあることを参加者に伝え、トイレ利用待ちの際には距離をとって並ぶよう指示する。

(7) 体調不良者が出た場合の対応

体調不良を訴え出た参加者に対しては、保健室にて体温計による検温を実施し、37.5 度以上あった場合は帰宅してもらう。熱がない場合は状態を確認し、休憩後に回復した場合は再参加してもらう。

(8) 会場からの退出

各イベント終了時に会場を退出する際、順次一定間隔をあけて退場するよう指示する。送迎バスも本数を増やし、混雑が発生しないよう十分に注意を図る。

(9) 終了後の会場の消毒

全スケジュール終了後は、使用した会場の机や椅子等を全てアルコール除菌シートで拭いて消毒を行う。